

外国固有名詞の中国語音訳表記 - 語彙教育への応用に向けて-

著者	仇 曉芸
号	10
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	国博第136号
URL	http://hdl.handle.net/10097/59234

QIU XIAO YUN
仇 晓 芸

学位の種類 博士(国際文化)
学位記番号 国博 第 136 号
学位授与年月日 平成24年 3月27日
学位授与の要件 学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻 東北大学大学院国際文化研究科(博士課程後期3年の課程)
国際文化言語論専攻
学位論文題目 外国固有名詞の中国語音訳表記
- 語彙教育への応用に向けて -
論文審査委員 (主査)
教授 志柿光浩 准教授 ワーナー・ピータージョン
教授 宮本正夫
准教授 上野稔弘
(東北アジア研究センター)

論文内容の要旨

1. 研究の背景と目的

1.1 外来語の“認識難”

中国語教育の現場で「中国語の外来語を認識するのは難しい」という学習者の声をよく聞く。中国語は漢字のみを書記体系としている。英語などの言語のように、単語の間にスペースがないため、単語の区切りがはっきりしない。また、日本語のカタカナのような表音表記も存在しないので、漢字だらけの文章の中からすぐ外来語だと見分けることができない。このような書記的な特徴があるため、中国語の場合、語彙の区切りはどこまでなのか、どこに外来語あるいは固有名詞が挟まれているのかといったことを認識するのは難しい。

実際、初級学習者のみならず、中級のレベルに達した学習者にとっても中国語の外来語を認識したり使ったりするのは簡単ではない。敖依昌・严光仪(1999)、郭晓沛・吕兆格(2005)などが指摘しているように、外来語の習得は中国語学習の一つの困難点となっている。

さらに、外来語をそれとして認識することが困難であるだけでなく、例えそれが外来語である

と認識できたとしても、中国語表記を見て元の語彙を想像し、類推することができないという問題がある。実際、中国語の文の中で漢字で書かれている外来語や固有名詞を認識することを苦手とする学習者が多くいる。

1.2 外来語の種類と音訳表記の特徴、分類

また、外来語といっても音訳、意識、アルファベット表記など様々な種類がある。このうち、意識と音訳が一般的な外来語転写方法である。意識表記されたものは、漢字と漢字の間で意味的なつながりがあるため、一般語彙との境界が見極めにくく、分析も難しいと考えられる。

一方で、音訳表記の場合、表意機能よりも漢字の表音機能が前面に出され、語彙内部において個々の漢字は意味的なつながりが発生しない点（“散性関係”）で、他の種類の外来語表記や、一般語彙の漢字の間に見られる意味的な連携がある関係（“聚性関係”）と大きく異なる。これまでの研究では音訳表記を最も典型的な外来語表記であるとしている（史有为 2000、杨锡彭 2007）。このことは音訳表記に目を向けた一つの理由である。

上記の特徴の他に、実際、音訳表記は量的にも無視できないほど多い。学習者にとって出会いやすい重要な外来語の一種で、中国の経済成長と国際化に伴って、これからも大量にこのような語彙と出会う可能性があるため、学習者にとって音訳表記の外来語はもはや以前の「知ったほうがいい語彙」から「把握して置かなければならない語彙」へと重要性を増していると思われる。これは本研究が音訳表記に焦点を当てるもう一つの理由である。

外来語は一般語彙（例：“巧克力”チョコレート）と固有名詞（例：“卡萨布兰卡”カサブランカ）に分けることができる。一般語彙の場合は、教科書に登場することもため、学習者にとってまだ学習の機会が多いと思われる。しかし、音訳表記固有名詞の場合は状況が異なる。まず、教科書では固有名詞があまり登場しない。音訳表記の固有名詞は、出現頻度が低いため、語彙教育の中で扱われる順番が後になる傾向が従来からある。しかし、場面によっては、固有名詞が果たす役割は大きい。ある状況下で重要度が増す人名や地名などの固有名詞は、母語話者にとっては普通に使う語彙群に含まれるにも関わらず、非母語話者にとっては外国語学習の中でも扱われにくく、馴染みのないものとなる可能性が高い。このようなコミュニケーションギャップが人間の交流を大きく阻害している場合がある。

1.3 中国語の字と語素

中国語の「字」について、これまで様々な見解が示されている。钱乃荣（1995）は現代中国語の漢字は表音性が低く、表意性が比較的高いと述べている。また、「字」を語素文字として位置づけている研究者もいる（钱乃荣1995、袁彩云2006、张斌2008）。北京大学中文系现代汉语教研室（2003）

は「字は語素文字と言ってもよい」とするに留めている。

これまで多くなされている研究の中で、DeFrancis (1984) は独自の見解を示している。DeFrancis (1984:88) は中国語の漢字の特徴について「象形文字」とも「表意文字」とも言えないとした上で、「大多数の文字が、大まかな意味範疇を示唆する意味論的要素と特定の音節を示唆する音声学的要素を併せ持つという状況」があるとし、漢字の大多数は“morphosyllabogram”、“morphosyllabograph”（表語素表音節文字）であると指摘している。

1.4 音訳表記と「多音節単純詞」

音訳表記された固有名詞は「多音節単純詞」に属する。「多音節単純詞」の特徴は、漢字が表音節機能に特化して用いられ、中国語の多くの一般語彙に見られる1漢字（音節）=1語素という関係が消滅し、複数の漢字からなる文字列（複音節）=1語素=1詞という関係が成立している点にある。1字のみから成る語彙は別として、2字以上から成る中国語の語彙の多くは、語彙を構成する一つ一つの漢字が表わす語素を組み合わせた合成語である。ところが、音訳表記の場合、個々の漢字の表語素機能は基本的に消滅し、それらの漢字の連なりは語素の組み合わせではなくなる。

1.5 研究目的

本研究の目的は、中国語で表記された外来語、その中でも外国固有名詞を取り上げ、これを中国語を母語としない学習者が効果的かつ効率的に習得できるようにするにはどうしたらよいのか、という問題の解決に貢献することにある。

具体的には、音訳表記である外国固有名詞に焦点をあて、中国語の一般使用において、字・語素・詞のレベルでの分析をはじめ、使用漢字にはどのような傾向が見られ、また語構成上どのような特徴があるのかを探った。外国固有名詞の中国語音訳表記の特徴を浮き彫りにするため、比較対象として学習基本語彙の分析も行った。外国固有名詞の音訳表記と学習基本語彙に使われる際の漢字のふるまいの違いを考察することも目標の一つで、中国語語彙教育に示唆を与えることを目指した。

1.6 研究対象

中国語一般語彙のサンプルとしては、学習基本語彙、具体的には『汉语水平词汇与汉字等级大纲』（国家汉语水平考试委员会办公室考试中心2001、以下『大綱』と呼ぶ）に収録されている全8822項目のうちで最も基本的とされる「甲級詞」に含まれる1033項目を対象にした。

外国固有名詞音訳表記については、外国人名、外国地名、海外ブランド名という三つのジャンルを取り上げた。外国人名については“人名译音表”（『世界人名翻译大辞典』1993、以下、人名訳音表と表記）、外国地名については“地名译音表”（『中华人民共和国国家标准外语地名汉字译写导则』

2008、以下、地名訳音表と表記)のそれぞれ英語対訳版に記載されている漢字を対象とした。海外ブランド名については、一定の基準で厳選された世界著名なブランド名に絞り、60項目とその使用漢字113字を対象にした。

2. 先行研究

2.1 音訳全般の使用漢字について

石山(1974)は、『現代汉语外来词研究』(1958)に記載されている音訳表記の外来語547項目とその使用漢字1618字を対象に分析した。その結果、出現頻度が特に高かった“克、尔、斯、拉、林、士”について、何れも同音字が多いにも関わらず使われていることから、音訳に特に好んで使われている文字であり、また“拉”を除いては、比較的使用頻度の低い漢字であるとしている。郑厚尧(2005)は次の3種類の漢字が多いと述べている。(1)“巴、士、雷、达”など中性的な意味合いを持つ漢字が多く使われている、(2)“香、波、奔、驰、摩、丝”など当該語彙の属性を表す漢字が見られる、(3)特に化学の分野などで“铀、铝、氢、氮”など新しい漢字が少なくない。また周有斌(2007)は“的、士、沙、发、苏、打、吉、他”を使用頻度の高い漢字として挙げ、画数が少ない点に特徴があるとしている。杨锡彭(2007)は音訳の使用漢字は賛美の意が込められている漢字が多いとして“奔、驰、乐、歌、美”を挙げている。

2.2 外国固有名詞音訳表記の使用漢字について

楊曉文(1998)は(1)外国人男性の名前によく使われる漢字として“夫、大、烈、林、森、为、根、雷、龙”、(2)外国人女性の名前によく使われる漢字として“娜、妮、娅、梅、梨、莲、丝、珊、丽”、(3)外国の地名に特に当てられている漢字として“雅、典、伦、敦、巴、黎、纽、约、莫、斯、科、火、奴、鲁”を挙げ、最後の漢字群については、中国の地名にはあまり用いられていないと指摘している。このほか、マイナスのイメージを持つ漢字、人体に関する漢字、動物の名称、日常生活性を著しく帯びている漢字は、外来語の音訳にはあまり使われないと指摘している。このほか、外国人女性名の使用漢字について、杨锡彭(2007)は“玛、丽、茜、莎、黛、茱、蒂、芬、琳”を特徴的なものとして挙げている。

2.3 外国ブランド名の音訳表記使用漢字に関して

李建华(2004)は外国ブランド名について(1)分かりやすく、覚えやすい漢字(“可、乐、冰、纯”)、(2)清潔さと快適さを連想しやすい漢字(“洁、诺、舒、蕾”)、(3)化粧品の場合には綺麗なイメージをもたらす漢字(“芳、黛、诗、兰、姿”)、(4)人々の心にすでに定着している馴染みのある漢字(“肯、德、基、夏、普、吉、列”)が使われる傾向があるとしている。湯瑾(2005)は、

外来ブランド名を調査し、(1) 日常生活にあまり関連しない漢字（“尼、摩、尔、斯、卡”）が多く、(2) また化粧品や日用品には女性的なイメージを持つ漢字（“华、花、芬、芳、娜、婷、丽”）が使われていると指摘している。

3. 研究課題と研究方法

3.1 研究課題

本論文では以下の研究課題を設定して研究を行った。

- (1) 外国固有名詞の特性を理解するために中国語一般語彙と対照するにあたって、中国語一般語彙の基本的特性はどこに求めることができるか。
 - a. 学習基本語彙の場合、字・語素・詞の3者はどのような関係を持っているか。
 - b. 学習基本語彙のうちの合成語の場合、語構成上、どのような基本的特性が測定できるか。
 - c. 以上の2点と併せて、学習基本語彙に用いられている漢字にはどのような基本的傾向が見られるか。
- (2) 外国固有名詞の代表的なカテゴリーである外国人名、外国地名の音訳表記はどのような特徴を持つと言えるか。
 - a. 外国人名、地名に用いられている漢字に字・語素・詞の3者はどのような関係を持ち、どのような基本的傾向が見られるか。
 - b. 外国人名、地名の場合、語構成上、どのような基本的特性が測定できるか。
 - c. 上記のことから、外国人名、地名の音訳表記の特徴についてどのようなことが言えるか。
- (3) 外国固有名詞の中で現在も重要性を増しつつあると考えられる海外ブランド名の場合、音訳表記の使用漢字がどのような特徴を持っているか。
 - a. 海外ブランド名の音訳表記に用いられている漢字には、どのような特徴が見られているか。これらの特徴は外国人名、外国地名の音訳表記の特徴に比べて、どのような違いがあるか。
 - b. 海外ブランド名の原音と中国語音訳表記の発音の間の対応関係にはどのような特徴が見られるか。
 - c. 字・語素・詞という視点から海外ブランド名の使用漢字は語構成上、どのような特徴や基本傾向が見られるか。
- (4) 漢字の字・語素・詞から見た基本的な傾向と特徴について、学習基本語彙と外国固有名詞（外国人名、地名、海外ブランド名）と比較して、どのような違いが見られるか。
- (5) 上記4つの研究課題で明らかにした結果から、外国固有名詞音訳表記を中国語語彙教育の中で扱うにあたってどのような示唆を得ることができるか。

3.2 研究方法

- (1) 中国語一般語彙のサンプルとして学習基本語彙、具体的には『汉语水平词汇与汉字等级大纲』(『大綱』)に収録されている全8822項目のうちで最も基本的とされる「甲級」に含まれる1033項目を対象として、その語構成特性を先行研究で示された語構成分類を参考にして独自に設定した分類法に基づき分析した。
- (2) 外国固有名詞音訳表記については、外国人名および外国地名について制定されている『訳音表』に収録された漢字を取り上げ、これらが一般語彙の中で使用された場合の語構成特性を中国語コーパスを用いて分析した。
- (3) 外国固有名詞音訳表記の分析対象のうち、特殊な性格を持つと考えられる海外ブランド名について、一定の基準を設定してサンプルを抽出し、これを対象として、原音との対照を行うと共に、音訳表記使用漢字について(2)と同様にこれらが一般語彙の中で使用された場合の語構成特性を中国語コーパスを用いて分析した。
- (4) 上記(2)および(3)の分析の結果を(1)の分析結果と対照し、外国固有名詞の音訳表記語構成特性上の基本的特徴を検討した。

3.3 中国語コーパスについて

前節(2)と(3)の分析にあたっては、外国固有名詞に使用された漢字の中国語の全般的な使用形態における使用状況を明らかにするために、中国語コーパスを使用した。具体的には、一般に公開され入手が容易な「ランカスター大学標準中国語コーパス」(Lancaster Corpus of Mandarin Chinese 以下、LCMCと呼ぶ)を用いた。

LCMCは均衡・品詞タグ付きコーパスであり、本研究の目的に合致した性格を備えている。コーパス作成に用いられたテキストは1991年前後に発表されたものである。全体ののべ語数(token)は1,001,826、異なり語数(types)は53,433、総字数は1,477,487である。

4. 分析と考察

4.1 一般語彙の基本的特性

『大綱』の甲級詞1033項目(異なり字数800字)を対象に分析を行い、次のようなことが明らかになった。(1)品詞の種類からみると、最も多いのは名詞で、その次は動詞と形容詞である。また、機能語である虚詞も少なからず含まれており、重要である。(2)音節数について、単音詞、双音詞がほぼ半数ずつを占め、数が限られている多音詞は全て三音節詞だった。(3)使用漢字について、甲級詞の使用漢字800字は『大綱』が定めている甲級漢字800字と3項目(辐、诗、桔)を除いて重なっている。(4)甲級詞を構成する字と語素について、(a)成詞語素と不成詞語素別で見ると、成詞語

素で、1字=1語素=1詞の関係を作る傾向の強い字と多音詞の一部である不成詞語素となる傾向が強い漢字、両方が含まれてる。(b) 合成詞における語素の位置について、語頭あるいは語末に現れる傾向の強い漢字が存在している。(5) 甲級詞の語構成パターンについて、従来の研究で指摘された双音詞の語構成パターンの分類を踏まえ、本研究独自の分類を試みた。結果として「同類並列型」(例：“东西、互相”)と「修飾・被修飾型」(例：“黑板、钢笔”)が多数を占め、その次に「音節付加型」(例：“杯子、爸爸”)も相当数あることが明らかになった。なお、多音詞は“儿”化問題(例：“小孩儿”)、「双音詞+単音詞」(例：“图书馆”)および疑問詞(例：“怎么样”)の三種類があった。

4.2 外国人名、地名音訳表記の基本的特性

外国人名の「人名訳音表」と外国地名の「地名訳音表」に記載されている漢字274字(異なり字数)を対象とし、外国人名、地名の音訳表記に使われている漢字の特徴をLCMCを用いて分析した。分析にあたっては4つの指標とそのなかのいくつかのものを組み合わせた指標を用いた。すなわち(1)出現頻度、(2)常用字・非常用字の別、(3)固有名詞に使用されている割合、(4)単音詞として使用されている割合、である。なお、外国人名、地名の音訳表記に用いられている漢字の中に「散性」的關係で用いられる傾向が強い漢字が一定程度含まれているはずだという仮説を立てて分析を進めた。

分析と考察を通して、以下のことが明らかになった。(1)出現頻度の高低と常用字、非・常用字の別から見ると、一般的使用頻度が高い字は全部常用字で、成詞語素が多いが、不成詞語素も含まれている。一方で、出現頻度の低い漢字は非・常用字が大多数である。一部の漢字は中国人名と外国人名どちらにも使われていることが明らかになった。

(2)固有名詞使用傾向と単音詞使用傾向について、固有名詞使用傾向も単音詞構成傾向も共に強い漢字は、中国人名の姓あるいは名に用いられている傾向の強い漢字である。固有名詞使用傾向は強いが、単音詞構成傾向が弱い漢字は、「多音節単純語」を構成する表音節機能を主な機能としている漢字が多く含まれ、特に45字の「散性関係使用漢字」を抽出することができた(表1)。

一方で、固有名詞使用傾向は弱く、単音詞構成傾向が強い漢字は、基本的な漢字が大半だった。名詞、動詞、形容詞になる字が中心だった。固有名詞使用傾向も単音詞構成傾向も共に弱い漢字は、合成詞の不成詞語素である漢字が多い。つまり、他の漢字共に合成詞を構成する漢字である(例：“水果、高兴”)。

表1 「散性関係使用漢字」

阿迪赫诺詹萨莱莎茨芬耶穆瑟璫琼珀玛泰沃桑曼斯敦
拉弗巴尼尔娜姆奥奎埃圭吉勒凯兹克伯伦伊亨亥乌

(3) 前述したように、本研究は「散性」的關係で用いられる傾向が強い漢字が含まれていることを前提に仮説を立てて分析を進めたが、分析結果を踏まえ、仮説にあてはめて示したものが表2である。

表2 分析結果に基づいた仮説の検討

	単音詞を構成する傾向が強い (1)	単音詞を構成する傾向が弱い (0)
固有名詞での 使用傾向が 強い (+)	(+ / 1) 中国人名の姓 彭蔡贾朱鲍潘韦曹岑杜匡滕 繆陶卢乔丁霍赖雷焦孙罗	(+ / 0) 中国人名の2字の名 ¹ 恩昆泽贝尧楠茹华英森永栋 詹凯琼莎
	中国人名の名 琳菲莉杰龙黛 中国人名の姓/名 宁梅苏柳	散性関係使用漢字 阿迪赫诺詹萨莱莎茨芬耶穆 瑟璫琼珀玛泰沃桑曼斯敦拉 弗巴尼尔娜姆奥奎埃圭吉勒 凯兹克伯伦伊亨亥乌
固有名詞での 使用傾向が 弱い (-)	(- / 1) 1字 = 1語素 = 1詞の漢字 曾钱万若塞多里比黑丝盖派 米内日道班扎留约图真凡高	(- / 0) 1字 ≠ 1詞の漢字 (聚性関係使用漢字) 厄灿萝绍什希贡普策基格维 农容察索果努宗兴利豪彻辛 劳保丰申科明特默代祖

(4) 従来の研究による指摘との対照について、本研究で散性関係の語構成に使われる傾向が高いとした45字(表1)のうち、先行研究で指摘された使用漢字に含まれたのは次の16字であった(表3)。

表3 先行研究と本研究両方に取り上げられた固有名詞音訳表記に特徴的な字

迪诺莱莎芬玛斯敦拉巴尼尔娜吉克伦

1 場合によって2字の名の使用漢字も1字の名に使われる可能性がある。また逆の可能性もある。中国人名の2字の名のうち、「詹」は中国人の苗字としても使われる。

上記の漢字は先行研究と本研究両方に取り上げられ、外国人名、地名に特に使われる可能性の高い漢字と見なしてよいと考えられる。

4.3 海外ブランド名音訳表記の基本的特性

4.3.1 使用漢字の特徴と発音の対応関係

選定された60項目の海外ブランド名の使用漢字は113種類だった。まず、使用漢字の特徴として、ごく基本的な漢字も使用頻度が低い非基本漢字も共に使われているが、とりわけ、基本漢字の多用は外国人名、地名にも見られなかった海外ブランド名の特徴であろう。先行研究で指摘されてきた佳字の多用も確認することができた。ただし、画数が多い漢字は少なからず含まれていることは先行研究では指摘されてこなかった点である。

発音の対応関係について、漢字の選択および音節数の調整が一体になっていることが改めて明らかになった。原音と中国語の発音の間に、一定の対応関係は見られたが、原音をより忠実に転写するよりも海外ブランド名としての性格に合わせて漢字を選択しようとする意思と、中国語語彙全般において2音節語と3音節語が最も多いことと合致させようとする意思が優先的に働いている例が多かった。

4.3.2 音訳表記における字・語素・詞

前節では、海外ブランド名の使用漢字の特徴を明らかにし、また原音と音訳表記の中国語発音の対応関係を分析した。その結果を踏まえ、本節では字・語素・詞の観点から海外ブランド名使用漢字の語構成特性を分析した結果を報告する。

分析結果によれば、単音詞固有名詞として出現頻度の高い漢字は、海外ブランド名に限らず固有名詞全般に特徴的な漢字群である可能性が高い。多音詞固有名詞での出現頻度が高い漢字は「散性」的關係を持つ傾向が強い漢字である。

前後の漢字との共起傾向について、I 該当漢字の直前・直後が漢字である場合、II 該当漢字の直前・直後が記号・符号である場合、III 該当漢字が語頭である場合という三つのケースに分けて、一般語彙か固有名詞か、品詞の種類、語を跨っているかどうかなどの視点から詳細を考察した。

4.3.3 音声転写固有名詞認識の手掛かりとなる漢字

海外ブランド名の音訳表記を認識する上で手掛かりになる特徴を備えているかという視点から対象漢字113字の分類を試みた(表4)。

表4 音声転写固有名詞認識の手掛かりの観点からの113字の分類

I 群 音声転写固有名詞マーカーになりうるもの	
A 類 音声転写マーカー	漢字：逊迪赫诺萨莱芙玛沃欧森柯斯尼尔埃兹亨
説明：外来語の音声転写に使われる可能性が高い漢字であり、音声転写を認識する際、典型的なマーカーである。	
B 類 固有名詞マーカー(中国人名も含む)	漢字：阿轩浦奥勒丹香
説明：固有名詞の使用漢字としてよく使われる。中国人名にも使われる。固有名詞以外のものにも使われる可能性があり、見極める必要がある。	
C 類 その他マーカーになりうるもの	漢字：麦雅谷西福德威妮哲哈吉华兰克佛丰亚英
説明：この種の漢字は一般語彙にも使われるが、そのバリエーションは限られる。固有名詞として使われた場合、特定の国名・地域名を示す傾向が強い。それ以外の場合、中国人名あるいは外来語の音声転写である可能性が高い。	
II 群：マーカーになる可能性のあるもの	
漢字：达驰露雪门赛蒂芳肯联罗维索科百登生特洁梅根易时 施摩拉思彼强家宜安子奈夫士基口卡劳力利列保佳事乐	
説明：一般語彙、固有名詞の両方で一定の頻度を示し、一般語彙と固有名詞どちらでも使われる漢字である。共起漢字と文脈によって判断する場面が多い。	
III 群：マーカーになりにくいもの	
漢字：高马飞雷透路诗虎能耐爱氏歌捷托戴当尚奔地可仕买	
説明：これらの漢字は単独での表意性が強く、意味上のつながりの強い漢字と共起して一般語彙を形成する傾向が強い。音声転写表記として認識する際には他の手掛かりを探す必要である。	

表4にあるI群及びII群の漢字を示したものは表5である。

表5 60項目のブランド名表記のI・II群漢字によるマーキング

埃森哲 英特尔 阿迪达斯 强生 安联 摩根 亚马逊 肯德基 阿玛尼 柯达 欧尚 卡夫 奥迪 雷克萨斯 雅芳 欧莱雅 百思买 路易威登 百威 麦当劳 佳能 梅赛德斯-奔驰 家乐福 摩根士丹利 卡地亚 摩托罗拉 卡特彼勒 耐克 香奈尔 妮维雅 雪弗兰 诺基亚 思科 诺华 可口可乐 百事 高露洁 飞利浦 戴尔 保时捷 迪士尼 雷诺 福特 路透(社) 吉列 劳力士 谷歌 西门子 哈雷戴维森 索尼 亨氏 蒂芙尼 轩尼诗 沃达丰 爱马仕 沃尔玛 赫兹 施乐 宜家 雅虎

(I群は二重下線、II群漢字一重下線)

4.3.4 共起傾向の対照

「散性関係」、「聚性関係」の観点から見ると、音訳表記の多くは散性関係であり、稀に聚性関係

が見られる該当漢字と左右の漢字による2字の組み合わせもある。本来ならば、外国固有名詞の音訳表記に使われている漢字同士は散性関係が保たれているのは当然のことであるが、海外ブランド名の場合、他のジャンルの固有名詞と違い、語彙内部において聚性関係が生じるケースがあることが大きな特徴である。それに伴い、認識の難しさもほかの固有名詞より高くなることが予測される。

一方で、該当漢字の一般的使用としての共起関係について、聚性関係の場合、名詞、動詞、形容詞など様々な品詞の語彙が見られる。しかし、一般語彙であっても必ずしも聚性関係であるとは限らない。項目によって散性関係も見られ、固有名詞、あるいはその一部、2つの一般語彙を跨っているケース、記号・符号が含まれるケースなど色々な分類ができた。下記は一部の例である。

ケース1 固有名詞とその一部

a. 固有名詞

外国人名：“珍妮”“巴赫” 外国地名：“罗马”

中国人名：“春英”“燕妮” 中国地名：“丹东”

b. 固有名詞の一部

“奥斯（卡）”（オスカー）、“墨尔（本）”（メルボルン）、“(卡萨布)兰卡”（カサブランカ）

ケース2 2つの一般語彙を跨っているもの

a. <動詞+1詞> 例：问轩 b. <量詞+1詞> 例：个沃

c. <虚詞+1詞> 例：让柯 d. <人称代名詞+1詞> 例：你奈

ケース3 <記号・符号+1字> 例：“《埃、”“，当”

一般的使用での共起傾向と音訳表記の対照について、該当漢字が語を構成する際、共に語構成に必要な漢字、つまり左右に来る漢字が存在していることが改めて確認された。共に語を構成する漢字以外のものが左右に並ぶと一般的使用に見られる聚性的な関係が崩れることがわかった。

5. 結論

5.1 外国固有名詞の音訳表記

外国人名、地名、海外ブランド名の三つのジャンルである外国固有名詞全般について、以下のことが明らかになった。

出現頻度の高い漢字は学習者にとって基本的な常用字で、成詞語素と不成詞語素が共存している。出現頻度の低い漢字は非常用字の割合が高まり、不成詞語素が多く、固有名詞音訳表記全般に用いられる傾向のある漢字が多数含まれている。

外国固有名詞に使われる傾向の高い漢字は、中国人名および「多音節単純語」を構成する漢字が多かった。これらの漢字は表音節機能が主な機能である。また、「散性関係使用漢字」を抽出する

ことができた。一方で、外国固有名詞に使われる傾向の低い漢字について、成詞語素の場合、名詞、動詞、形容詞であることが多かった。不成詞語素の場合、他の漢字と共に一般語彙を構成する漢字が多かった。

さらに、海外ブランド名の音訳表記では外国人名、外国地名の音訳表記と異なる特徴が見られた。積極的なイメージを持つ佳字の多用と、学習者にとって基本的な漢字の多用の二点は海外ブランド名の特徴である。その意味では外来語認識上、外国人名、地名よりも認識が難しくなる可能性が高いと考えられる。

5.2 学習基本語彙

外国固有名詞の特性を理解するために対照分析の対象とした学習基本語彙についても、外国固有名詞と同様に成詞語素と不成詞語素が併存している。不成詞語素の一部は特定の語彙で使われる傾向が強く、漢字によって語頭あるいは語末で使われる傾向が見られる。また、品詞の種類からみると、実詞の名詞、動詞、形容詞の他に、虚詞を成す漢字が上位を占めている。基本語彙の指導における虚詞の重要性も明らかである。

合成語の語構成パターンについて、先行研究の分類法を踏まえ、本研究は計9種類の分類を試みた。量的に最も多かったのは「同類並列型」、「修飾・被修飾型」、「音節付加型」の3種類だった。

5.3 語彙教育への示唆

外国固有名詞音訳表記を中国語語彙教育の中で扱うにあたって、以下の二つのことが重要であると思われる。

一つは散性関係の漢字の存在である。「多音節単純語」である外国固有名詞音訳表記の内部において、「散性関係使用漢字」と呼ぶべき文字群が存在している。「散性関係使用漢字」は表意機能よりも表音節機能が主な機能としてはたらし、単独ではあまり詞にならない点が大きな特徴である。学習者が音訳表記を認識する際、前後の漢字、文脈など様々な要素と関係していると考えられるが、使用漢字自身の特徴による判断の重要性も否めない。その意味では、散性関係使用漢字の存在を意識することによって、学習者の外来語認識ストラテジー、あるいは固有名詞認識ストラテジーの獲得に役立てることができるといえる。さらに、海外ブランド名を対象に分類した外国固有名詞認識マーカーも外来語認識ストラテジーの習得に使える重要なデータとなりうる。

もう一つは基本的な漢字の重要性とその扱いの難しさである。『大綱』甲級詞使用漢字のように学習者にとって基本的で日常的によく使う漢字は一般語彙のみならず、外国固有名詞音訳表記にも相当数用いられていることが明らかになった。この点は従来の研究と異なる本研究の新たな知見である。外来語認識の問題も含めて、中国語教育の初級レベルで基本漢字をどのように扱い、どのよ

うに効果的に教ればいいのかという問いの重要性は改めて見直されなければならない。その意味では、個々の漢字を知るだけに留まらず、字からその語構成特徴まで展開することを視野に入れることが大きな意味を持つものと思われる。

参考文献

(日本語)

石山曙生 (1974) 「中国語における「借詞」の表記法について－英語よりの外来語を中心に」『北海道駒沢大学研究紀要』(駒沢大学北海道教養部ほか) 第8号 pp.1-16

湯瑾 (2005) 「商品名の翻訳手法－中国市場の実例から」『国際文化学』(神戸大学国際文化学会) 第12号 pp.55-71

楊曉文 (1998) 「中国語の音訳外来語と日本語のカタカナ語」『パイディア教育実践研究指導センター紀要』(滋賀大学) 第6号 pp.59-65

(中文)

敖依昌・严光仪 (1999) 对外汉语教学中的外来词语《重庆大学学报(社会科学版)》(重庆大学) 第5卷 第3期 102-105页

北京大学中文系现代汉语教研室(编)(2003)《现代汉语》(重排本) 商务印书馆

高名凯・刘正琰 (1958) 《现代汉语外来词研究》文字改革出版社

郭晓沛・吕兆格 (2005) 浅析外国人学习汉语外来词的障碍《职业教育研究》(天津工程师范学院) 第11期 87页

国家汉语水平考试委员会办公室考试中心(制定)(2001)《汉语水平词汇与汉字等级大纲》(修订本) 经济科学出版社

李建华 (2004) 《商标翻译中音译的特点》《承德民族师专学报》第24卷 第4期 102-103页

民政部地名研究所(汇编)(2008)《中华人民共和国国家标准外语地名汉字译写导则》

钱乃荣(主编)(1995)《汉语语言学》北京语言学院出版社

史有为(2000)《汉语外来词》商务印书馆

新华通讯社译名室(编)(1993)《世界人名翻译大辞典》中国对外翻译出版公司

杨锡彭(2007)《汉语外来词研究》上海人民出版社

袁彩云(2006)《实用现代汉语》高等教育出版社

张斌(2008)《新编现代汉语》第二版 复旦大学出版社

郑厚尧(2005) 汉语文化对音译外来词的规约《上海翻译》第2期 17-19页

周有斌(2007) 制约音译外来词形式选择的原则《第五届全国语言文字应用学术研讨会论文集》197-204页

(English)

DeFrancis, John (1984) *The Chinese Language FACT AND FANTASY*, University of Hawaii Press

論文審査の結果の要旨

本研究は、中国語語彙教育に資するために、中国語で音訳表記された外国固有名詞の特徴に関する基礎的知見を得ることを目的としている。背景には、同じ外国固有名詞でも原語、中国語、日本語の間で表記と発音が大きく異なるがために意思疎通の障害が生じる経験を執筆者自身が体験してきたことがある。日常生活、学術活動などのさまざまな場面で、ある種の固有名詞を理解できないことはその話者の常識の欠如を示すと捉えられる場合がある。しかし書記体系と音韻体系が大きく異なる言語の間で学習者が固有名詞を適切に扱えるようになるには困難が伴う。

日本語でのカタカナ表記とは異なり中国語における外来語音訳表記には漢字が用いられるが、ここでは表語素表音節文字である漢字の表語素機能は後退し、一般語彙の構成漢字の間に見られる意味上の繋がり（聚性関係）が消え、意味上の関係のない繋がり（散性関係）を持った漢字文字列が作られる。本論文は、この聚性関係と散性関係の発現のしかたについて、中国語基本語彙、外国人名・地名および海外ブランド名の音訳表記を対象として分析したものである。

その結果、外国人名・地名および海外ブランド名の音訳表記に特徴的な表音節機能に特化する傾向の強い漢字群が存在すること、一方で日常的によく使われる基本漢字が音訳表記でも重要な比重を占めること、音訳使用漢字の規範化がなされている外国人名・地名に対して海外ブランド名の場合には佳字および基本漢字の多用が顕著に見られること、海外ブランド名の場合には音節数が原音のそれに近づく傾向があることなどを本論文は明らかにしている。

外国固有名詞の音訳表記に特徴的な漢字の存在は従来から指摘されていたが例示にとどまっておらず、具体的なデータを提示し得たことは本論文の貢献である。また、固有名詞音訳表記における基本漢字の使用ならびに外国人名・地名と海外ブランド名の音訳表記に見られる違いに関する知見の多くは本論文が新たに提出したものである。

本論文の分析対象は限定されており、そこで提出した知見はさらに多くのデータを用いて検証されねばならない。しかしながら一般語彙の表記との対比における外国固有名詞音訳表記の特徴について、本論文は研究の手法も含め中国語学および中国語教育学の分野への重要な貢献を果たしており、執筆者が自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と学識を有することを示している。よって、本論文は、博士（国際文化）の学位論文として合格と認める。